



知床岬の玄関口

ルサフィールドハウスに密着取材

文・戸田実琴（普及企画係）

ルサフィールドハウスは、知床半島先端部地区の入り口に位置し、知床岬や知床岳などのバックカントリー地域の利用者に対し、ルールやマナー、安全対策などの現地の情報を提供する施設です。

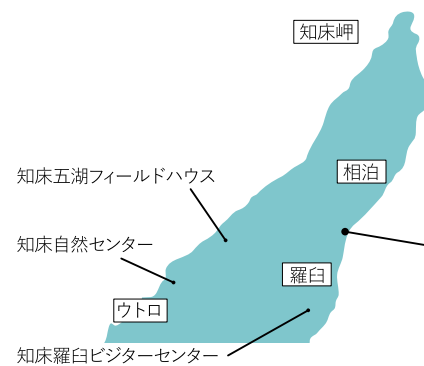


ルサフィールドハウス

知床財団は、環境省および羅臼町からの委託を受けルサフィールドハウスの管理運営を行っています。

また、一般の旅行者に対しては、知床の海と陸の生態系や、人と海の関わりなどの展示を通して、知床の自然の素晴らしさを発信しています。

知床五湖や羅臼岳などの有名なトレイルや登山道に比べたら、ややマイナーな存在かもしれませんが、誰もが一度は目にしたいと思う「知床岬」に一番近い施設。そんなルサフィールドハウスでの業務を皆さんにご紹介したいと思います。



ルサフィールドハウスの2つの顔

1 知床半島 先端部地区への入り口

知床岬には徒歩でしか到達することができません。ルサフィールドハウスでは、原生の自然の魅力や、楽しみ方、安全管理、環境保全の方法などをお伝えします。展示パネルが常設されており、半島先端部の自然環境、ルール、アイヌ文化、

漁業など、様々な情報を得ることが出来ます。スタッフお手製の「危険事例ブック」や「知床岬攻略本」は知床岬へのバックカントリーに挑む方はもちろんのこと、立ち寄った方にも知床の厳しさを実感していただける展示アイテムです。

2 知床の自然と人をつ繋げる憩いの場

目の前に根室海峡が広がる館内からはクジラやシャチの姿を望むこともあります。一面ガラス張りの二階には観察ブースがあり、屋内からホエールウォッチングをすることが出来ます。クジラが泳ぐ海を眺めながらくつろぐ時間は、まさに知

床ならではの体験です。またルサフィールドハウスでは年に数回「ルサカフェ」やサケやマスの観察会などのイベントも実施されており、ビジターや地元住民が集う憩いの場にもなっています。



インフォメーションボードには、常に最新情報を表示。巡視記録や地元の方の情報提供を随時手書きで記入していきます。

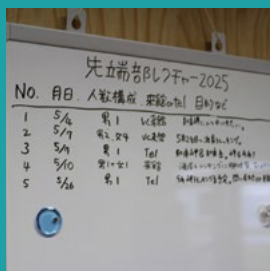
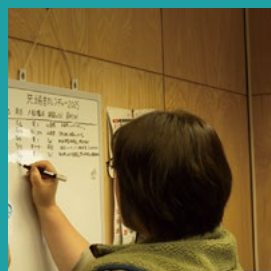


RUSA

ルサフィールドハウススタッフのお仕事にも密着



インフォメーションカウンターでは、案内やグッズの販売を行っています。旅行者が訪れた際にはスタッフが声をかけて説明することも。現地での経験に基づいた話が聞けるのも、ルサフィールドハウスの魅力のひとつです。



先端部レクチャー受講者は電話での問い合わせを含め年間80人程。対応した日時や聞き取りの内容をホワイトボードに記入し、スタッフ全員に共有します。

知床財団のスタッフは普段どんな仕事をしているの？
あまり知られていない日々の取り組みをご紹介します。

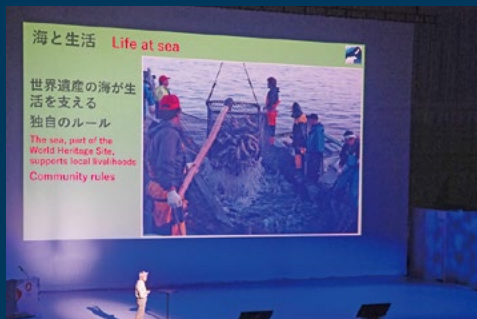


大阪・関西万博のイベントに出展！

6月5日に大阪・関西万博で開催されたイベント「千の自然 千の時間 ー私たちと世界自然遺産5地域ー」に出展しました。

知床財団は、知床地域を代表してプレゼンテーションに登壇し、知床の魅力や現在抱える課題について紹介しました。また、同会場では知床の動植物や産業などに関するパネル展示を実施し、来場された方々に知床の豊かな自然の魅力を発信しました。本イベントには国内外から多くの来場者が訪れ、知床に関心を寄せる皆様と直接交流する貴重な機会となりました。

詳しくは「活動ブログ」をご覧ください
<https://www.shiretoko.or.jp/report/2025/06/8719.html>



ヒグマ AI 検知システム 稼働開始

羅臼町では、ヒグマの市街地接近や住民生活への影響を抑えるため、AI 技術を活用した「ヒグマ出没早期警戒システム」を役場主導のもと導入しました。このシステムは、町内でヒグマ出没が予想されるエリアにセンサーカメラを設置し、撮影された画像を AI が解析してヒグマを検知すると、即座にスタッフのスマートフォンへと通知される仕組みです。

このシステムによって人的リスクを抑えながら迅速な対応が可能になることが期待されています。知床財団もこのプロジェクトに参画し、羅臼町役場と連携してヒグマに強いまちづくりを進めています。



「知床岬にはどうやって行けばいいですか？」知床で多く寄せられる質問のひとつです。知床半島には岬まで続く道はなく、観光船で海上から見るか、自らの足で海岸線を踏破するしか方法はありません。

半島東側の道路終点「相泊」から先は、本格的なバックカントリーエリア。そこには遊歩道や標識は無く、厳しい自然環境の中での行動が求められます。高度なリスク管理が必要であり、ヒグマをはじめとする野生動物との関わり、ルールやマナー、生態系への配慮など、幅広い知識と入念な準備が欠かせません。

ルサフィールドハウスでは先端部へ向かうビジターに対して個別にレクチャーを実施しています。最新の自然状況や天候、各自のスキ

ルに応じた具体的な提案を交え、安全かつ適切な利用を促します。

私たちスタッフは日々自ら現地を巡視し、情報を更新し続けています。単なる知識の提供にとどまらず、私たち自身が感じ取った現場の空気を伝えることも、レクチャーの大切な一部。「自己責任」とされるバックカントリーの世界ですが、知床財団はその一歩を踏み出す人々に、確かな情報と責任を持って向き合っています。



先端部へ立ち入る際の留意事項が全て詰まった「利用の心得」

column「ルサ」

「ルサ」とはアイヌの言葉で「ル・エ・シャニ（＝道が・そこから・浜へ出ていくところ）」が語源となっています。標高 1000 メートルを超える知床連山と知床岳の間に位置するこの場所は標高 240 メートルと低い峠になっているのです。

その峠には風が集まり、東西の海へと吹き抜けていきます。かつてアイヌの人々も、この地を「道」として利用し、半島を行き来していたと伝えられています。

やがて「ル・エ・シャニ」は「ルサ」へと名を変え（半島西側の斜里町では「ルシャ」）、この地の自然と、そこに生きてきた人々の営みを今に伝える場所となっています。



ルサフィールドハウス

〒086-1813 北海道日梨郡羅臼町北浜 8 番地
開館時間 9:00~17:00 (5月1日~10月31日) 毎週火曜日休館
<https://policies.env.go.jp/park/shiretoko/rusa-fieldhouse/>

シレココ

知床半島先端部地区利用の心得 Web サイト
<https://www.env.go.jp/park/shiretoko/guide/sirecoco/>

知床半島先端部地区レクチャー

知床岬を目指してトレッキング